

ベテランの経験と若手の勢いが絡み合って、
スピード感あふれるバスケットボールを



アイシン・エイ・ダブリュ ウィングス のみなさん

昨年3月、WJBL(バスケットボール女子日本リーグ機構)のWリーグに昇格。

ム内の様子をキャプテンの栗原綾子選手に伺いました。
※文中の成績はインタビュー時(1月17日現在)のもの。

まずは、Wリーグ昇格おめでとうございます。

入れ替え戦に勝って昇格が決まったときは、もちろんうれしかったんですけど、ほっとしたというのが正直なところですね。そして現在Wリーグで8チーム中6位。これまでの自分の戦いぶりは？

Wリーグは初めて

なのであたりの強さとかシュートの正確さなど今までとの違いを実感しています。シーズン前は(全28試合中)10勝を目指してスタートし、

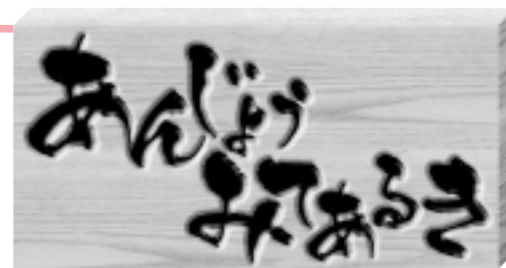
現在8勝(13敗)。目標には近づいていますが、勝てる試合も落としているので満足はしていません。ウィングスはどんなチームですか？

他のチームと比べると

筆者のつぶやき

日本代表の経験もある3人のベテラン選手を中心に、ハイスコアゲームとスピード感あふれるバスケットボールを展開するウィングス。「まだリーグに昇格したばかりで、力は安定していないが、ベテランと若手が融合して勢いにさえ乗れば、強豪相手でも勝てる」とはコーチ伊藤篤司さんのお話。地元チームの活躍に乞うご期待！

ベテランから若手まで年齢層の幅が広い。リーグ最年長の選手もいますし(笑)。
ベテランの豊富な経験と若手の勢いがうまく絡み合えば、Wリーグの強敵相手でもいい試合ができると思います。
ところで普段はどんな生活を？
週に1回くらいは休みがありますが、それ以外はほとんど朝から晩まで練習だから休みと言ってもほとんど体のケアをしています。
それでは、最後に今後の目標を聞かせてください。
まずは最初の目標だった10勝を。そして今リーグでベスト4に入れるように残りの試合もがんばりたいです。地元安城市でも試合がありますので、いい試合をお見せしたいですね。
そして、いつかはWリーグで優勝できるように。みなさん応援よろしくお願いします。



その34

都築弥厚茶室



受けた人が、ここ西蓮寺に寄付したのです。

安城市域の大部分は「碧海台地」と呼ばれる洪積台地で、江戸時代まではあまり開発が進まず、「安城ヶ原」と呼ばれる荒地が広がっていました。江戸時代後期、この台地に川を掘り、矢作川から水を引き込もうと壮大な計画をしたのが和泉村(現在の和泉町)の都築弥厚です。弥厚は、5年の歳月をかけ、私費で測量を行い、幕府の援助を取り付けました。しかし、領主や住民の猛反対にあい、全財産を投じた彼の計画は志半ばにして完成することもなく、弥厚は過労で倒れてしまいました。

ここ西蓮寺には、都築弥厚の家にあった茶室があります。弥厚の死後、彼の残した莫大な借金のため、都築家がこの茶室を手放し、それを譲り

この茶室は江戸時代の文化・文政期(1804〜1819年)の宗徧流の茶人不藏庵龍溪の作といわれています。この茶室の座敷は二畳台目です。「台目畳」とは一畳より少し小さい畳の畳をいい、そこで茶をたてます。茶室の隣の「控の間」とは壁で仕切られており、庭の飛石を伝って茶室に入ります。入り口は狭い「にじり口」ではなく、立ったまま入る「貴人口」であり、障子戸にすることで、茶室に明るさを与えています。

弥厚は多芸な文人でもありました。俳句も作り、その句碑は安城公園内の文学の散歩道にあります。「木がらしも まつに移れば 松の風」



茶室と貴人口

